



診察室から

片頭痛　急性期治療と予防治療

第262号

発行日：令和7年11月

発行者：医療法人 博愛会

福田脳神経外科病院 新聞部

院長 福田 雄高

季節は急に涼しくなりました。急な気温や天候の変化は、めまい、脳卒中だけでなく片頭痛の誘因となっているものと考えます。話は変わりますが、最近海の向こう側では、二刀流の野球選手が活躍されています。

野球においては“攻撃”、“守備”どちらも重要ですが、片頭痛診療においても、痛くなったり頭痛を治療する“急性期治療”と、頭痛を起こさないようにする“予防治療”的二本柱が治療においては重要になります。“急性期治療”においては、トリプタン、ジタンといった内服薬やトリプタンの注射薬が主な治療の主役になります。

“予防治療”においては、睡眠、規則正しい生活習慣、活動、リラックス、片頭痛の誘因除去が実は大前提で重要ですが、薬物加療も有効です。予防薬内服だけでなく抗CGRP抗体注射がはじまり、片頭痛は以前と比べてコントロールできるようになりました。これまで頭痛にたちうちできなかつた方に対しても、格段にうまくコントロールできる時代になったパラダイムシフトがおきています。その一方で、予防注射は高額であること、注射が苦手な方、基本的には定期的に注射を打つ必要があることなどの欠点もあります。

現在予防治療だけでなく急性期薬にもなるまさに二刀流の薬の発売も控えています。片頭痛の程度、生活に対する支障度の個人差は大きいものと考えます。うまく頭痛をコントロールすることで、日々良い毎日の生活を送れる可能性があります。頭痛で困っている方は是非頭痛外来を受診して頂ければ幸いです。

盆地を眺める



“Vivir mejor no es sólo tener más, sino que es ser más feliz”

「よりよく生きることは、より所有することではなく、より幸せになると
いうことだ。」 **José Mujica**

予約システム 始まりました

予約システムを導入して、2ヶ月が経ちました。予約していただくと、待ち時間が少なくなりますので、診察の予約をお勧めいたします。予約システムを導入したと同時に、診察室の呼び込みも行っています。受付待合室・中待合室にモニターに、番号が表示されます。“ポーン”と音が鳴ります。ご自分の当日の番号が表示されたら、表示されている診察室にお入り下さい。

尚、診察は受付された番号順ではありません。ご了承下さい。



受付待合室・中待合室のモニターは
このように表示されています。

大園先生の講演 がありました

演題

MCI（軽度認知障害）を理解しよう
早期発見と対策の重要性



当院のスタッフや患者さん、そして
多くの方が講演を聞きに来られていました。
とても為になる講演でした。

10月26日（日）薬剤師会館にて

スタッフリレー

お題：私の好きな事



看護師 M・S

私の趣味はランニングをすることです。

長い距離は走れませんが自分の家の周囲で1周 2.5kmのランニングコースがあるので、それを週に3~4回、3~4周走っています。走っている時はきつかったり、何で走っているんだろうと思う事もありますが、走り終わった後の爽快感が良くて続けています。体力維持の為にも今からも続けていこうと思います。

私の好きな事 — 臨時版 —



パッチワークキルト



福田 千恵子



作成された理事に、パッチワークキルトについてインタビューしてみました。



Q 作成期間を教えて下さい。

A 今回の分は3ヶ月位です。

Q 1日どれくらいの時間作成されていますか？

A 休日に1日中縫っていました。

Q テーマ的なものがありますか？

A 今、ブームのドジャースの布があったので、大谷さんの小さなユニフォームも縫いつけてみました。

Q どの部分が一番大変でしたか？

A 縦・横 一定しないハリのない布を縫い合わせる所

Q アデイアはどんな時に浮かびますか？

A 布の柄を見た時

Q 一番最初にパッチワークを作られたきっかけは何ですか？

A アメリカのキルトの本を見て、子供に作ってあげたいと思ったのがきっかけです。最初頃に作っていたパッチワークは、着なくなった服の生地で作りました。

Q 生地はどのような所で購入されていますか？

A どこででもです。旅行に出かけた時は、必ず布屋さんに行きます。

Q 今回のキルトのサイズは？

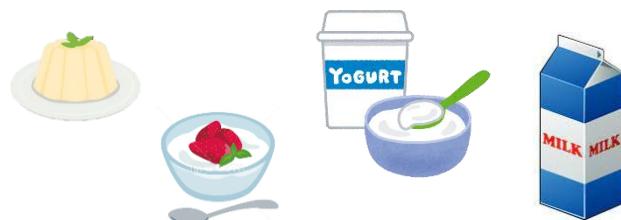
A 140×120 センチ

外來中待合室に飾っています。
是非みなさんご覧ください。

給食室より ~嗜好調査を実施しました~

管理栄養士 N・A

今回は、献立に導入している「乳製品を使用したデザート」について、アンケート形式で嗜好調査を行いました。当院の食事は治療の一環として行われています。不足しがちなたんぱく質、鉄分・カルシウムの摂取量をふやしたいと考え、牛乳やヨーグルトを使用したデザートを導入しています。



＜実施日＞ 令和7年 9月30日 (火)

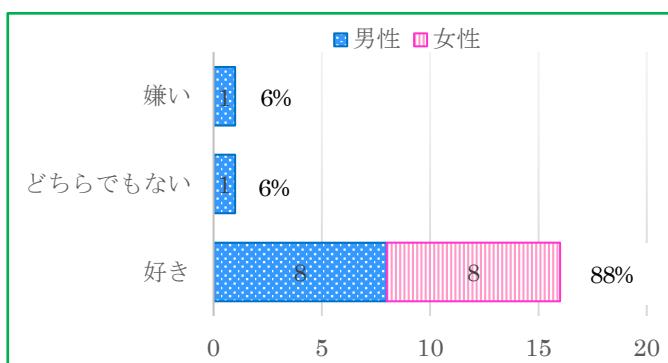
＜対象者＞ 入院患者 18名 (男性10名、女性8名)

＜方法＞ アンケートによる調査

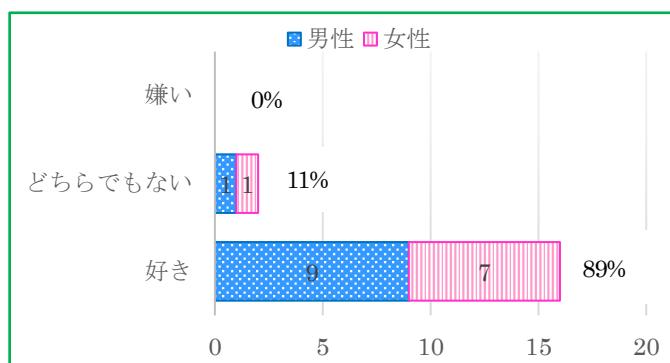
＜献立＞ ご飯(半量) にゅうめん にらの卵とじ ブラマンジェ(いちごソース)

＜結果＞

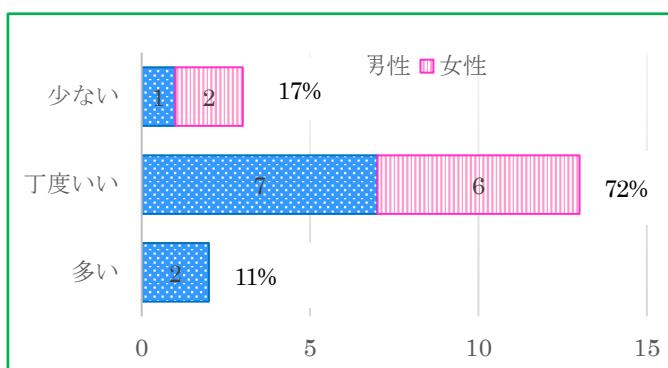
(1) 乳製品使用のデザートは好きですか？



(2) 乳製品使用のデザートの味はどうですか？



(3) 乳製品使用のデザートの量はどうですか？



(4) 食べたい乳製品使用のデザートはありますか？

また、好きな味はありますか？

- ・ミルクプリン
- ・フルーツヨーグルト
- ・ババロア(チョコ味・いちご味)
- ・杏仁風デザート
- ・ケーキ
- ・何でも好き

(5) その他、日頃の食事について

- ・もっと肉や魚が食べたい
- ・味噌汁が薄すぎる
- ・いつも美味しい、食は楽しみ



約9割の方が「好き」との回答だったため、乳製品を使用したデザートを盛り付けも工夫し、継続して提供していきたいと思います。
アンケートのご協力ありがとうございました。